

I - B - 5

柴朴湯の免疫調節効果

田北病院 内科

○田北雅夫

〔目的〕柴朴湯は従来気管支喘息に対して用いられ、その有効性は確立されている。又その免疫調節作用についても論じられているが、ヒトにおけるそれは未だ未解明の部分が多い。私は柴朴湯を長期投与し、投与前後での血中 IgE、IgG の変動を検討したので報告する。

〔方法〕アレルギー疾患症例 42 例に柴朴湯を一年以上投与し、投与前後の血中 IgE 値、IgG 値を測定した。柴朴湯投与前一年間及び投与後一年間ステロイドを連用した群をステロイド投与群、前記期間中ステロイドを投与しなかった群をステロイド非投与群とした。

本剤投与前血中 IgG 値が 1200mg/dl 以上の群を IgG 高値群、 1200mg/dl 以下の群を IgG 低値群とした。

〔結果〕本剤投与 4 ヶ月後よりステロイド投与群非投与群共に血中 IgE 値が有意に低下した。この低下はステロイド投与群ではより著明であり、投与 8 ヶ月目より投与群非投与群に有意差が認められた。IgG 値に関してはステロイド投与群非投与群共に大きな変動は認められなかったが、IgG 低値群においてはステロイド投与群に IgG 値の増加が認められ、投与後 8 ヶ月以後ではステロイド投与群非投与群の間に有意差が認められた。

〔考察〕(1)ステロイドホルモン投与による血中 IgE 値の低下は日常临床上よく経験するが、一年以上の長期連用後のそれはまれな事と考える。又 IgE 値の低下には IgG 値の低下が伴う事が多い。従ってステロイド投与群における血中 IgE 値の低下は、本剤とステロイドホルモンの相互作用に基づくものと考えうる。ステロイド非投与群での血中 IgE 値の低下はヒト体内分泌によるステロイドホルモンと本剤との相互作用との考え方も出来る。又血中 IgG 値に変動がない点より免疫抑制作用に基づくとは考えられない。

(2)IgG 低値群においてステロイド投与群のみで血中 IgG 値の上昇を認めた事は、ステロイド投与による免疫抑制作用に対して阻害効果を示したものと考えうる。(1)(2)より柴朴湯には免疫調節作用があると考えうる。

〔結語〕(1)柴朴湯の長期投与は血中 IgE 値を低下せしむる。この低下はステロイドホルモンとの相互作用に基づくものと推定出来る。(2)柴朴湯はステロイド連用による免疫抑制作用を阻害すると考える。